◉外房大原港発↓大原沖

# 生きイワシで狙うマハタ好況 ゲスト交じりでキロ級連発！

フィッシングライター／伊井泰洋 Yasuhiro Ii

生きイワシをエサに狙う泳がせ釣りはヒラメがその代表格だが、近年人気が上昇しているのがマハタだ。

一昔前は専門に狙う船は少なく、根周りのヒラメ釣りで外道に交じるくらいだったが、各地でマハタ狙いの船も増えてきた。

外房大原港の天の清栄丸が狙っている大原沖のマハタポイントは、マハタのほかに多彩な外道が交じる五目釣りが楽しめる。

船宿の待合所に入ると、船型のパネルに席札が掛かっているので、希望の釣り座の札を取って受付を済ませてから船着き場へと向かう。車は船のすぐ前に停められる。

船のイケスには生きのいいイワシがたっぷりと積まれていた。まだ辺りが薄暗い中、船はゆっくりと港を出る。

▲大原港出船のマハタは５月の連休まで楽しめる

▼合わせが決まった直後の突っ込みは強烈、根に潜られないよう強気で巻き上げ底から引き離そう

## 開始早々マハタがヒット

冬から春にかけて、ヒラメ専門狙いの場合は灘寄りの浅場を攻めることが多いが、マハタ五目は沖合の50～70メートルダチを狙う。港の灯りがどんどん遠くなり、およそ40分後にポイントに着いたときは周りは薄明るくなっていた。

「水深は65メートルです。底から1～2メートルで待ってみてください」と天野清樹船長のアナウンス。

「根はありますけど、それほどきつくはないです」と、底の状態も教えてくれる。

水深があるため、スパンカーを立てての流し釣りになる。船長は潮と風の向きを読み、道糸が真っすぐになるよう船を調整する。

船は徐々に流れながらポイントを探っていくが、水深が深くなったり浅くなったりするので、2～3分に一度はタナの取り直しをしてやる。

この取り直しが重要で、タナを正しく合わせるだけでなく、エサのイワシが上下に泳ぐのでアピール効果も生じる。

さっそく胴の間で竿が曲がった。2メートルほどのライトゲームロッドが気持ちよく曲がっている。

マハタ五目は80号オモリを使うが、ヒラメタックルを流用できる。近年流行のライトゲームロッドで80号オモリを使う人も多い。

やがて海中に灰色の影が見え、最初の流しからマハタが登場。キロ半のまずまずサイズだった。

このくらいのサイズは、刺身でも鍋ネタでも焼物煮物でも、どうやって食べてもおいしい。

### 知っ得！ Tips and Tricks マハタ仕掛け

マハタ五目ではヒラメより一回り太い仕掛けを使いたい。マハタはハリ掛かりした後に根に潜ろうとするので、ドラグはきつめに締めておき、なるべく糸を出さないでヤリトリするためだ。

マハタ専用仕掛けは市販されていないので、ヒラメ仕掛けを流用する人も多いが、天の清栄丸では太めのハリスと孫バリがシングルフックなのが特徴の船長自作の仕掛けも用意されている。

この釣りにトレブルフックはおすすめしない。強度が弱いのと根掛かりしやすいのが理由で、シングルの孫バリか孫バリなしがよい。

▲船長の特製マハタ仕掛け



続いてトモの人、さらに私の竿にもアタリがきた。踏ん張る感じの引きで上がってきたのはチカメキントキ。40センチ超えの良型で、脂が乗った白身は刺身でおいしい魚だ。

朝のうちにかかっていた靄が晴れ、日が昇ると陸地が見えてきた。北は太東崎、南は勝浦まで広く見渡せる沖を流している。

船長は小移動を繰り返しながらマハタのいる根周りを次つぎに探る。水深は50～70メートルで、この水深だと電動リールを使ったほうが楽だが、胴の間で釣っていた隣の柏原さんは両軸リールを使用、しかもロッドキーパーも使わず終始手持ちで釣っていた。

端から見ていると、タナを取った後に竿をゆっくり上下して誘いも入れている。このアグレッシブな釣り方が功を奏したか、1キロ半級を主体にマハタを連発し3尾を釣り上げた。

対して私は3メートルの竿を使い置き竿で狙う。アピール力に欠けるせいか、柏原さんの誘い釣法に魚を持っていかれている感が強い。

まめなタナの取り直しを心がけ、やっと本命らしきアタリがきたのは後半戦。

タナを取り直した直後にガツガツッ！ と激しく竿が揺さぶられた。

ヒラメと違ってマハタは一気に食い込むことが多い。上がってきたのは1キロのマハタで一安心。

## 船中オデコなしの好模様

今日のポイントはヒラメが交じるそうだ。船長に、「マハタとヒラメでは、タナを変えたりして狙い分けたほうがよいのか？」と質問したところ、とくにタナを変える必要はなく、同じタナでどちらも食ってくるとのこと。

それほど荒い根ではないので、マハタもあまり浮かず底近くで食っているようだ。

柏原さんに食わせたタナを聞いたところ、底から1メートルくらいだと教えてくれた。

私が釣ったことで、乗船者全員がマハタの顔を見た。あとはヒラメも釣りたいなと思いながら待っていると、カツン！ と鋭いアタリがきた。

これはおそらくヒラメだろうと予測し、竿先をやや下げて次のアタリを待つ。

2度目のアタリでも引き込みは小さく、さらにアタリを待っていたらエサを放してしまったようで、イワシには歯形がしっかり付いていた。

沖揚がりの時間となり、釣果はマハタが一人1～3尾と全員型を見ることができ、外道にはカンコ、チカメキントキが交じった。

この日は顔を出さなかったが、ヒラメは定番の外道。天野船長いわく、海水温が高くなっている影響か、マハタの魚影は年々濃くなっているという。

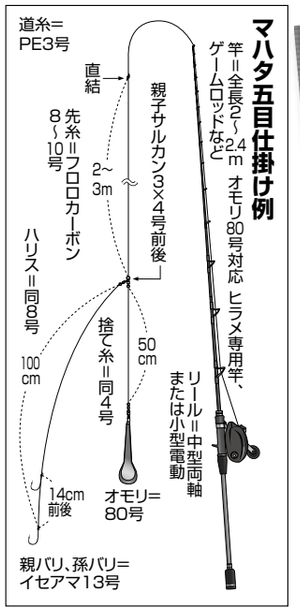
取材日翌々日にもマハタ1～6尾と好調が続いている。その食味のよさも広く知られ、マハタを釣りたいと希望する釣り人も増えているようだ。

大原沖のマハタ五目の釣期はゴールデンウイークまで。天の清栄丸ではマハタ五目、ヒラメ、フグのうち先に予約が入った釣り物に出船するので、マハタ希望の人は早めの予約をおすすめしたい。

### •Tackle Guide

マハタ五目のタックルはヒラメ用がそのまま流用できる。昔ながらのヒラメ専用竿を使う人も多いが、近年はライトゲームロッドを使う人もよく目にする。ライトゲームロッドを使う場合は、80号オモリに合ったやや硬めのものを選ぶとよいだろう。水深50メートル以上を攻めるのでリールは小型電動が使いやすい。

### マハタ五目仕掛け例



▲当日は１キロ級主体にトップ３尾が２名とまずまず

### ◉船宿information

外房大原港

**天の清栄丸**

☎0470・62・0905
（詳細は巻末の情報欄参照）

天野 清樹船長

▶料金＝ハタ五目乗合一人 1万2000円（エサ、氷付き）
▶備考＝予約乗合、4時半集合。ほかヒラメ、マダイ、フグへも出船